



▲城山湖
深さは28mあり、発電に使える
水の量は3,835,000m³で
25mプール5,800杯分です

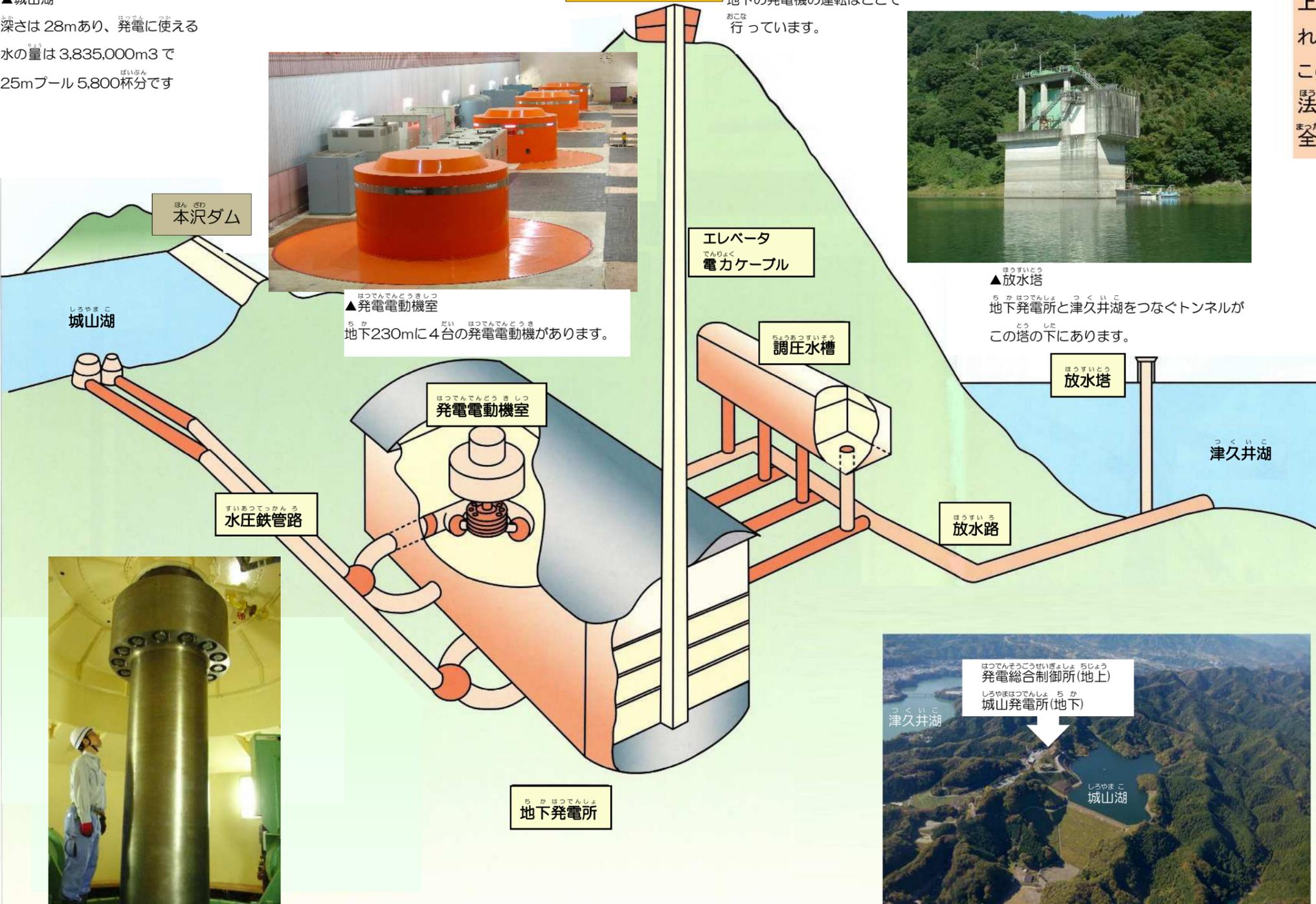


▲発電総合制御所と監視制御室
地下の発電機の運転はここで
おこな
行っています。



揚水発電所ってなあに？

電気の使われる量は一日のうちで大きく変わります。昼間は工場や事務所などでたくさんの電気が使われ、水力発電所もいっせいに発電します。しかし、夜になると電気の使われる量は昼間の半分以下になります。簡単に止めることのできない火力や原子力発電所では、電気が余ってしまいます。そこで、この余った電気を送ってもらい、下の貯水池(津久井湖)の水を上貯水池(城山湖)にくみ上げます。そして昼間電気の使われる量がなくなったときに、再びこの水を利用して発電をします。この発電方法を揚水式発電といいます。城山発電所もこの方法で発電をしていますが、上の貯水池に川から流れ込む水が全くないので純揚水式発電所といいます。



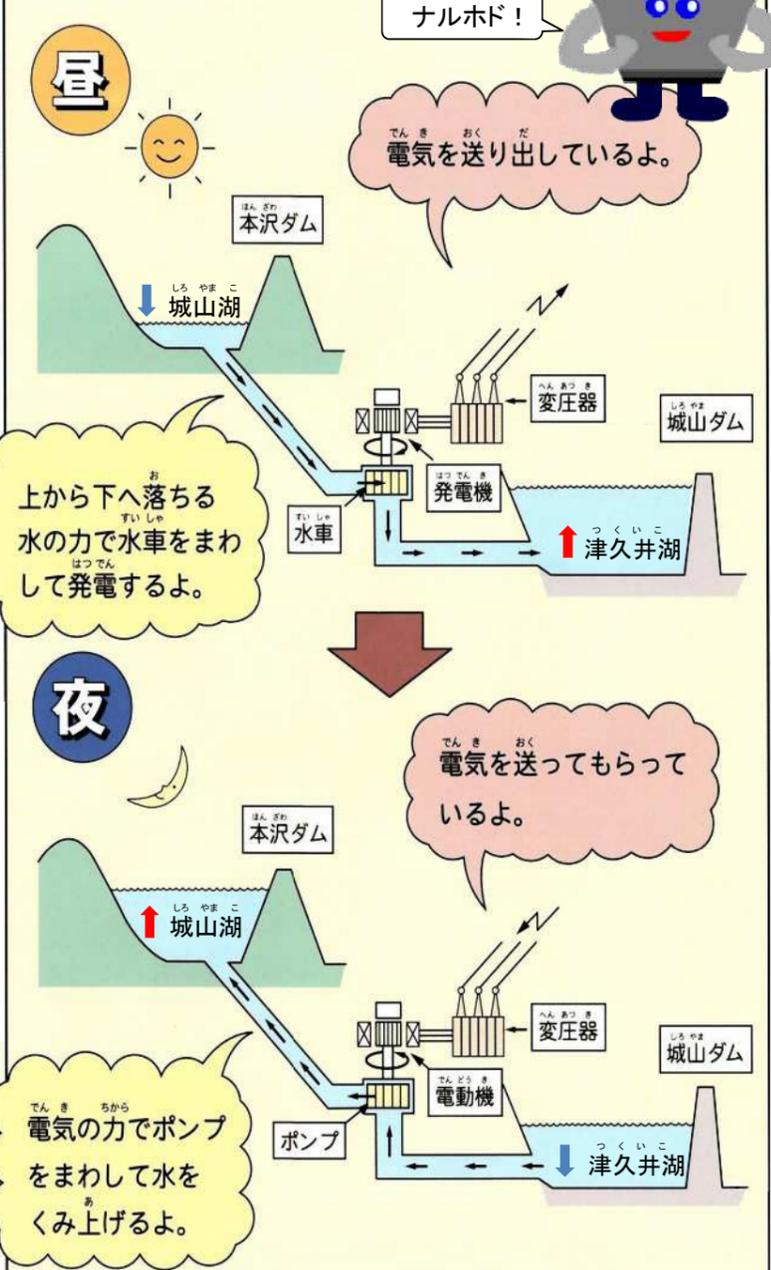
▲放水塔
地下発電所と津久井湖をつなぐトンネルが
この塔の下にあります。



▲主軸
発電機と水車をつないでいます。
心太さは直径約70cmです。



▲城山発電所 全景



ナルホド！
電気を送り出しているよ。

上から下へ落ちる
水の水車でまわ
して発電するよ。

電気を送ってもらって
いるよ。

電気の力でポンプ
をまわして水を
くみ上げるよ。